

景気動向調査結果

(令和7年10月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 7 年 10 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 7 年 11 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、409 社（製造業 198 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 202 社）で、回答率は 57.1 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

令和7年10月の景気動向

1 総論

長野県経済は、エネルギー・原材料価格高騰等の影響により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられます。

製造業の業況は、電機は、AI向け半導体の受注、生産が増加するなど好調に推移しました。また、一般機械では、米国関税による先行きの不透明感が和らぎ、海外向けの一部で持ち直しの動きがみられました。一方で、精密等その他の業種が低調に推移していることから、全体では14期連続でマイナス水準となりました。

非製造業の業況は、全業種の販売価格が前年を上回る水準を維持しています。加えて、DX化や省力化に伴うIT投資や安定した観光需要などを背景に、情報サービス業、宿泊業で業況がプラス水準となっています。一方で、米国関税の影響等による国内向け設備投資意欲の減退や物価高騰に伴う人件費を含めた経費の増加、慢性的な人手不足による営業制限、消費者の節約志向等から、卸売業、飲食業で業況が悪化し、非製造業全体の業況は2期連続のマイナス水準となりました。

2 製造業

(1) 業界の業況

前年同期（令和6年10月）と比較したD I（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は $\Delta 12.1$ となり、前回調査時（令和7年7月）の $\Delta 12.8$ より0.7ポイント改善しました。

3か月前（令和7年7月）と比較したD Iは $\Delta 4.1$ となり、前回調査時の $\Delta 6.7$ より2.6ポイント改善し、16期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和8年1月）の予想では、D Iは $\Delta 12.8$ となり、15期連続のマイナス水準となりました。

〔主な業種の動き〕

ア パソコンは、Windows10サポート終了（10月）による買い替え需要の反動により、受注、生産が減少しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。半導体関連は、AI向けの受注、生産が増加するなど好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しがみられます。抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは弱含んでいる一方、情報通信向けは下げ止まり、産業用機械向けで底堅く推移しています。モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資が減少等の影響により、受注、生産が低調に推移している一方で、航空機向けは需要の回復等により、順調に推移しています。

イ 一般機械では、工作機械のうち、半導体向けは受注、生産が低調に推移した一方で、自動車向けは、米国関税の不透明感が和らいだことから、射出成型機の受注に、持ち直しの動きがみられます。金型は、自動車関連向けで受注、生産が順調に推移しています。建設機械は、米国関税の不透明感が和らいだことから、海外向けの一部で持ち直しの動きがみられます。

ウ 精密では、時計は、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、映像関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。圧力計は、半導体製造関連の在庫調整等の影響で、受注、生産は低調に推移しています。水道、LPガスメーターは、受注、生産が堅調に推移しています。

エ 自動車部品は、受注、生産に持ち直しがみられます。

オ 味そは、季節的要因での増減はあるものの、受注、生産が減少しています。酒類は年末に向けた需要増がある一方で、受注、生産が低調に推移しています。飲料は、季節的要因などにより、受注、生産が持ち直しています。

(2) 受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が27.4%と前回(27.1%)より増加し、「減少」とする企業が31.5%と前回(37.9%)より減少した結果、D Iは前回(△10.8)より改善し、△4.1となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が18.3%と前回(22.7%)より減少し、「減少」とする企業が22.8%と前回(27.6%)より減少した結果、D Iは前回(△4.9)より改善し、△4.5となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業は11.3%、「減少」とする企業が23.6%となった結果、D Iは△12.3となりました。

(3) 生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が29.3%と前回(26.7%)より増加し、「減少」とする企業が34.8%と前回(38.6%)と減少した結果、D Iは前回(△11.9)より改善し、△5.5となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が26.5%と前回(22.3%)より増加し、「減少」とする企業が22.4%と前回(31.2%)より減少した結果、D Iは前回(△8.9)より改善し、4.1となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業15.4%、「減少」とする企業が24.1%となった結果、D Iは△8.7となりました。

(4) 製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が42.4%と前回(39.4%)より増加し、「安い」とする企業が4.0%と前回(3.4%)より増加した結果、D Iは前回(36.0)より改善し、38.4となりました。

3ヵ月前との比較では、「高い」とする企業が14.3%と前回(14.3%)と変わらず、「安い」とする企業が2.0%と前回(3.4%)より悪化した結果、D Iは前回(10.9)より改善し、12.3となりました。

3ヵ月後の予想については、「高い」とする企業が17.3%、「安い」とする企業が1.0%となった結果、D Iは16.3となりました。

(5) 資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が5.7%と前回(6.7%)より減少し、「苦しい」とする企業が17.7%と前回(16.8%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△6.6)より悪化し、△12.0となりました。

3ヵ月前との比較では、「らく」とする企業が5.8%と前回(7.1%)より減少し、「苦しい」とする企業が11.1%と前回(13.8%)より減少した結果、D Iは前回(△6.7)より改善し、△5.3となりました。

3ヵ月後の予想については、「らく」とする企業が3.7%、「苦しい」とする企業が14.7%となった結果、D Iは△11.0となりました。

(6) 収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が22.2%と前回(22.3%)よりやや減少し、「低下」とする企業が40.4%と前回(39.1%)より増加した結果、D Iは前回(△16.8)より悪化し、△18.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「上昇」とする企業が11.2%と前回(11.4%)よりやや減少し、「低下」とする企業が26.5%と前回(30.2%)より減少した結果、D Iは前回(△18.8)より改善し、△15.3となりました。

3ヵ月後の予想については、「上昇」とする企業が8.7%、「低下」とする企業が27.6%となった結果、D Iは△18.9となりました。

(7) 製造業の業種別動向

電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは、Windows10 サポート終了(10月)による買い替え需要の反動により、受注、生産が減少しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、AI向けの受注、生産が増加するなど好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要に持ち直しが見られます。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは弱含んでいる一方、情報通信向けは下げ止まり、産業用機械向けで底堅く推移しています。

(モーター等) モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資が減少等の影響により、受注、生産が低調に推移している一方で、航空機向けは需要の回復等により、順調に推移しています。

(その他) 車載部品は、需要の停滞等により受注、生産が弱含んでいます。

一般機械

(工作機械) 工作機械のうち、半導体向けは受注、生産が低調に推移した一方で、自動車向けは、米国関税の不透明感が和らいだことから、射出成型機の受注に、持ち直しの動きが見られます。

(金型) 金型は、自動車関連向けで受注、生産が順調に推移しています。

(建設機械) 建設機械は、米国関税の不透明感が和らいだことから、海外向けの一部で持ち直しの動きが見られます。

(農業用機械等) 農業用機械等は、酪農・畜産関係向けの需要が減少している一方で、稲作関係が好調で受注、生産が下げ止まっています。

精 密

(時 計)

時計は、受注、生産が好調に推移しています。

(レ ン ズ)

レンズは、映像関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。

(計 器)

圧力計は、半導体製造関連の在庫調整等の影響で、受注、生産は低調に推移しています。水道、LPガスメーターは、受注、生産が堅調に推移しています。

自動車部品

自動車部品は、受注、生産に持ち直しがみられます。

食 料 品

(味 そ)

味そは、季節的要因での増減はあるものの、受注、生産が減少しています。

(酒 類)

酒類は年末に向けた需要増がある一方で、受注、生産が低調に推移しています。

(飲 料)

飲料は、季節的要因などにより、受注、生産が持ち直しています。

繊維・衣服

繊維・衣服は、季節的要因により、受注、生産が減少しています。

紙 ・ パルプ

ダンボールは、季節的要因により、受注、生産が減少しています。

印 刷

印刷は、印刷・製本の需要の低迷などにより、低調に推移しています。

3 非製造業

【総論】

非製造業の業況は、全業種の販売価格が前年を上回る水準を維持しています。加えて、DX化や省力化に伴うIT投資や安定した観光需要などを背景に、情報サービス業、宿泊業で業況がプラス水準となっています。一方で、米国関税の影響等による国内向け設備投資意欲の減退や物価高騰に伴う人件費を含めた経費の増加、慢性的な人手不足による営業制限、消費者の節約志向等から、卸売業、飲食業で業況が悪化し、非製造業全体の業況は2期連続のマイナス水準となりました。

【業界の業況】

(1) 業界の業況

前年同期（令和6年10月）と比較したDIは $\Delta 11.8$ となり、前回調査時（令和7年7月）の $\Delta 15.8$ より4.0ポイント改善しましたが、2期連続のマイナス水準となりました。

3か月前（令和7年7月）と比較したDIも $\Delta 6.2$ となり、前回調査時の $\Delta 5.6$ より0.6ポイント悪化し、2期連続のマイナス水準となりました。

また、3か月後（令和8年1月）の予想DIは $\Delta 15.6$ と、現状からの悪化が見込まれています。

(2) 各業種の動き

ア 建設業

公共工事が底堅い一方、施工単価の引き上げにより民間の設備投資には慎重な一面も見られ、技術者の人手不足等に伴い受注量を制限せざるを得ない状況もあることから、売上高DIや受注件数DIは改善したものの、マイナス水準となりました。これに伴い、業況DIについても $\Delta 26.9$ と前回（ $\Delta 43.6$ ）から改善しましたが、引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは $\Delta 2.4$ と、現状からの横ばい傾向が見込まれています。

イ 情報サービス業

大手企業のDX化や県内企業の省力化に伴う受注は底堅く推移していることから、売上高DI、受注件数DIともに改善し、プラス水準となりました。業況DIについても44.4と前回（11.1）より改善し、5期連続でプラス水準を維持しました。

一方で、受注量に対する従業員の不足や人件費の高騰等により、3か月後の業況DIは $\Delta 25.0$ と、現状からの悪化が見込まれています。

ウ 小売業

生活必需品の食料品や気温の低下により秋冬物が好調な衣料品を扱う業態の売上高が改善している一方、価格高騰の中で消費者の節約志向は高まり、一部の商品では買い控えもあることから、食料品を除く専門スーパー、住関連専門店、その他小売店における売上高DIがマイナス水準となり、小売業全体の売上高DIもマイナス水準となりました。加えて、物価高騰による仕入値や人件費の上昇により、収益率DIが全ての業態でマイナス水準となったことから、業況DIについても $\Delta 14.3$ と前回（ $\Delta 20.9$ ）より改善したものの、9期連続のマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは、一部で大型ショッピングモールの出店による競争激化を懸念する声もあ

ることなどから△20.2と、現状からの悪化が見込まれています。

エ 卸売業

米国関税の影響や価格高騰に伴う国内向け設備投資意欲の減少、消費者の買い控え傾向から、売上高D I、取引先数D Iが悪化し、マイナス水準となったことから、業況D Iは△33.4と前回(14.3)より悪化し、2期ぶりにマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは△20.0と、現状からの悪化が見込まれています。

オ 飲食業

インバウンドを含めた観光客需要や一部で商品価格の改定等が見られる一方、宴会や二次会需要の減少、人手不足による営業制限等により客数D Iはマイナス水準となり、利用客の小規模化や節約志向から売上高D Iも悪化しました。これに伴い、業況D Iは△8.7と前回(15.0)より悪化し、5期ぶりにマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは、△33.4と、現状からの更なる悪化が見込まれています。

カ 宿泊業

国内旅行者、インバウンドともに堅調な観光需要から、売上高D I、客数D Iともにプラス水準を維持しており、業況D Iは25.0と前回(18.2)から改善し、プラス水準となりました。一方で、雇用確保のための賃上げや人手不足による外注費、光熱費等の経費増に加え、物価高による旅行者の節約志向から十分な価格転嫁が出来ず、収益率D Iは2期連続のマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは15.4と、現状からの改善が見込まれています。

景気動向調査集計結果

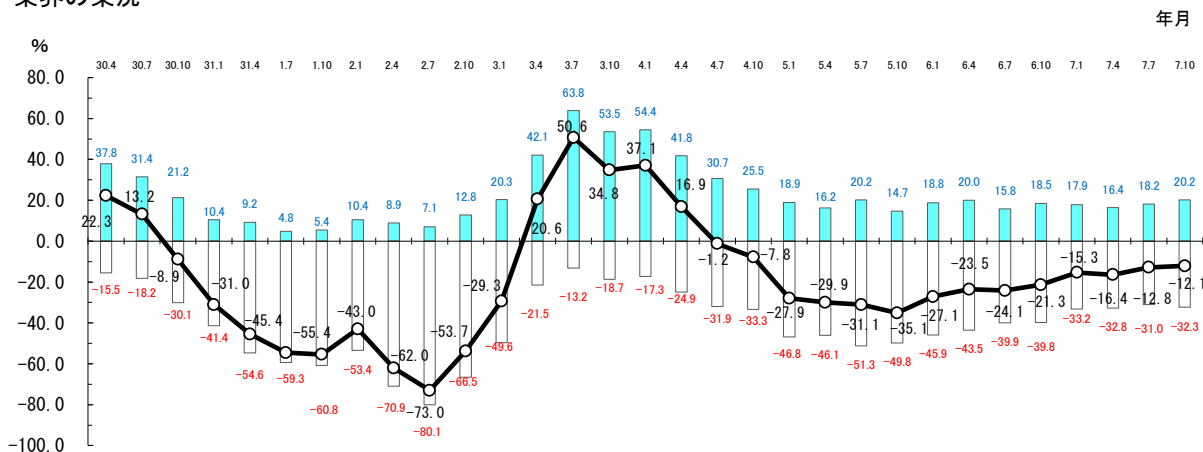
(注) 棒グラフのプラス側は好転 (増加、上昇) の企業の割合、マイナス側は悪化 (減少、低下) の企業の割合です。

折れ線グラフ (D I) は好転 (増加、上昇) の企業の割合から悪化 (減少、低下) の企業の割合を引いた差です。

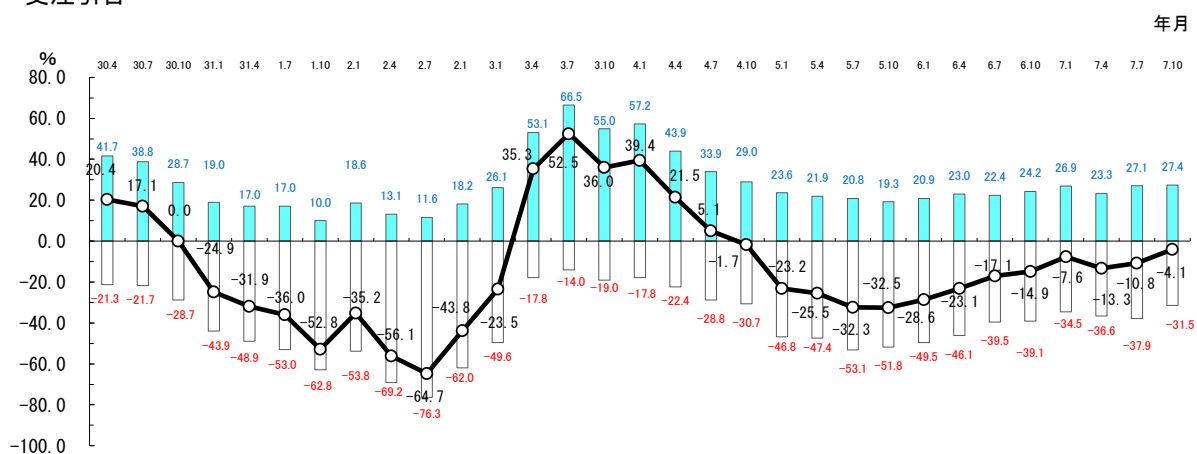
1 製造業

(1) 前年同期に比べて

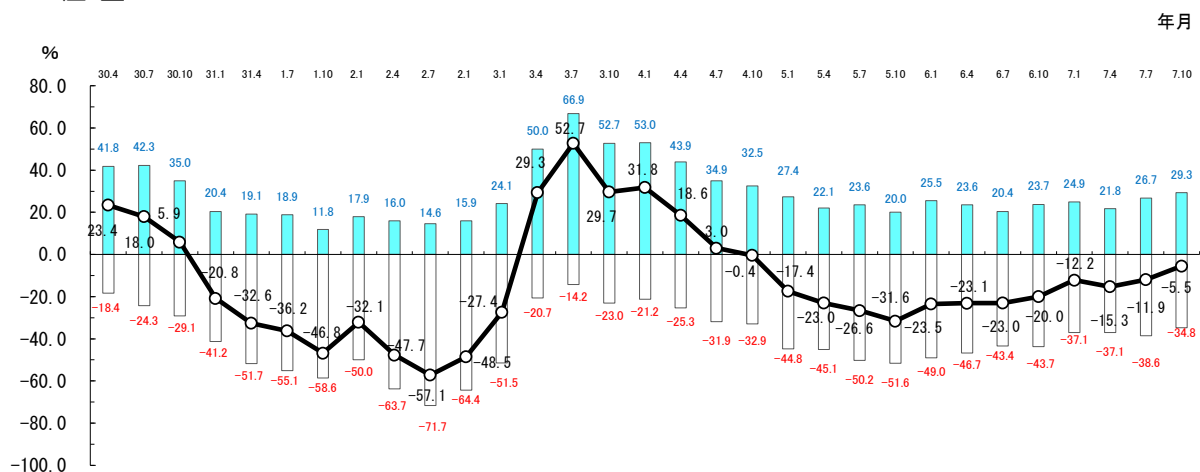
業界の業況



受注引合

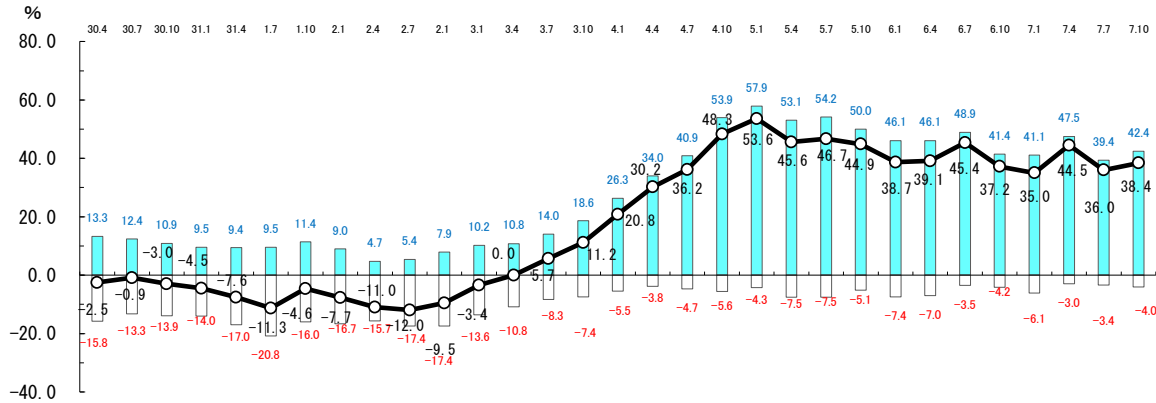


生産量



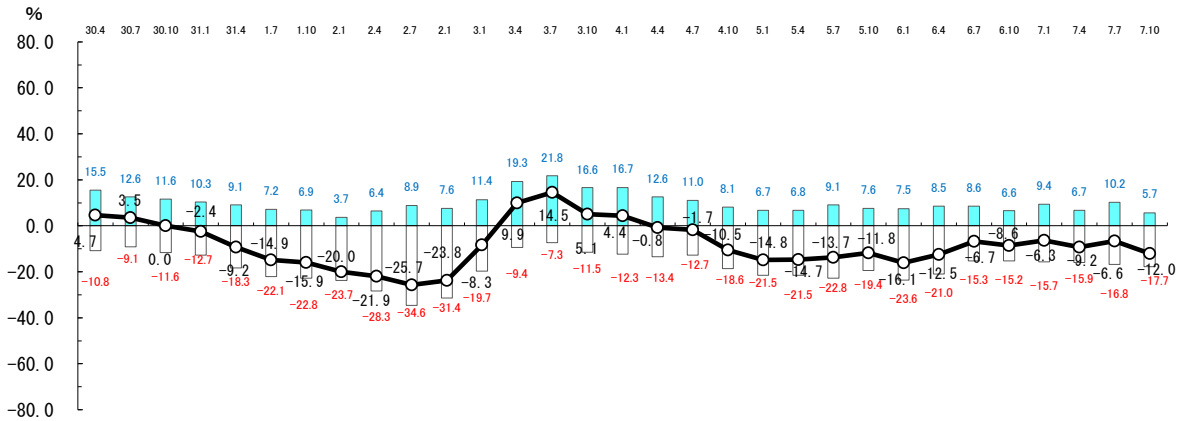
製品販売価格

年月



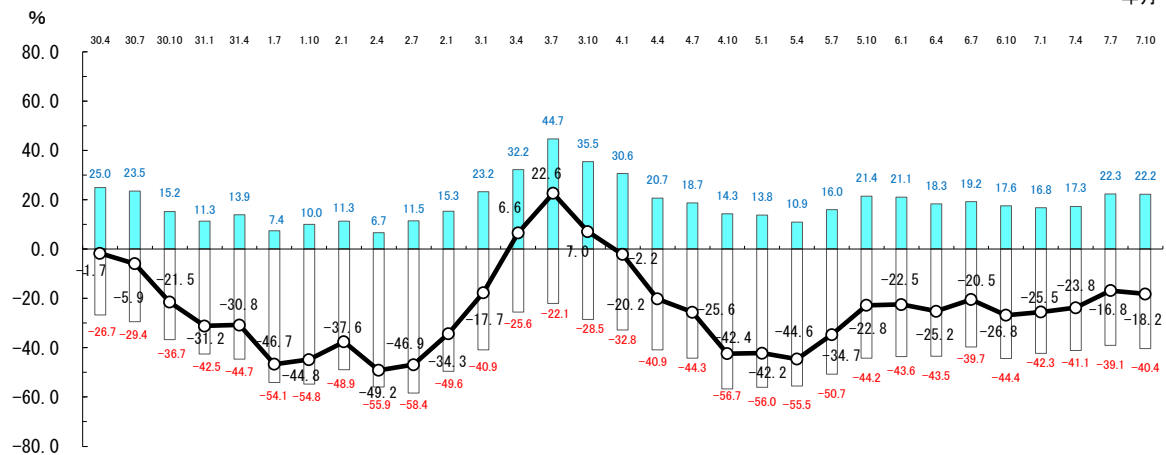
資金繰り

年月



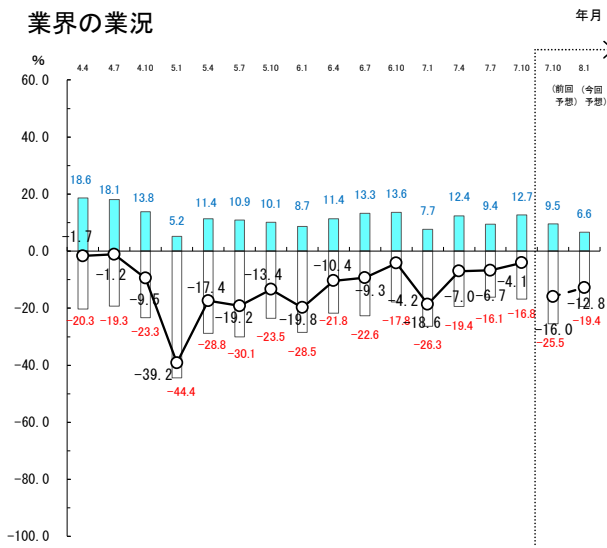
収益率

年月

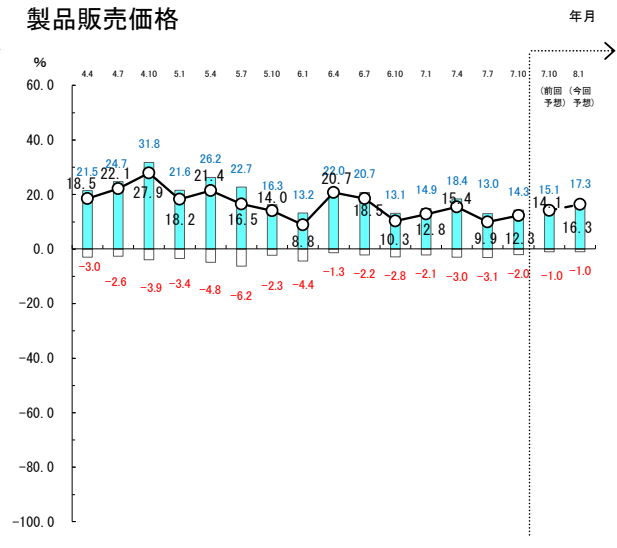


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

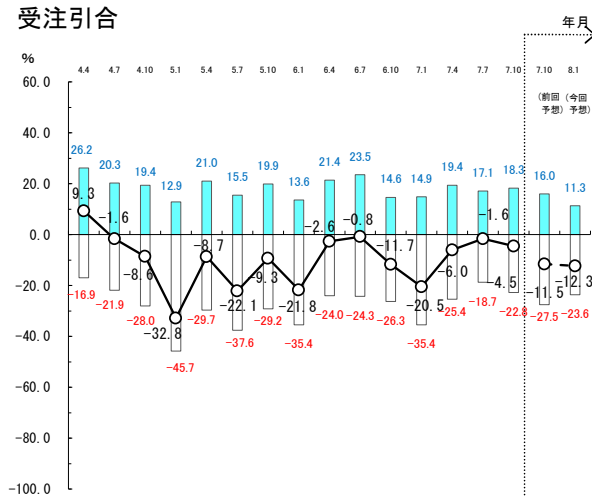
業界の業況



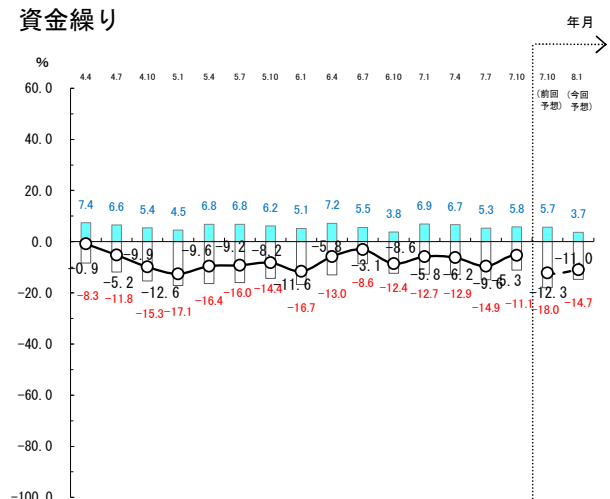
製品販売価格



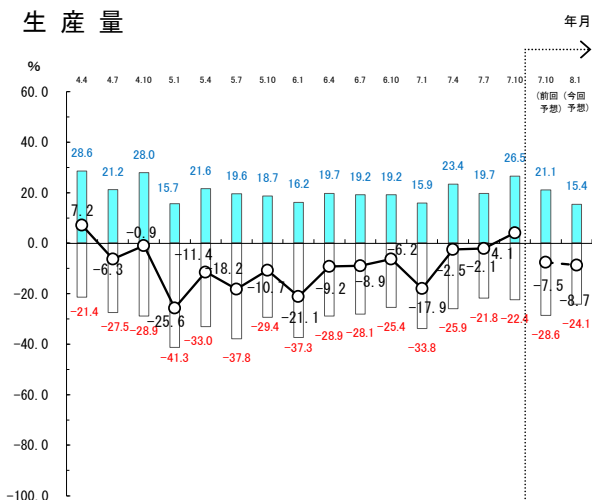
受注引合



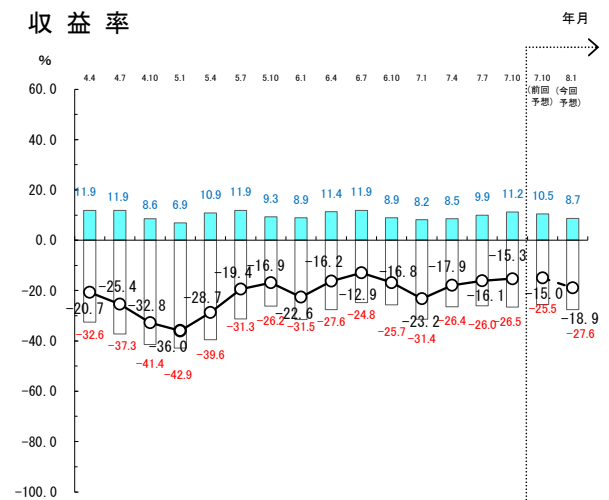
資金繰り



生産量



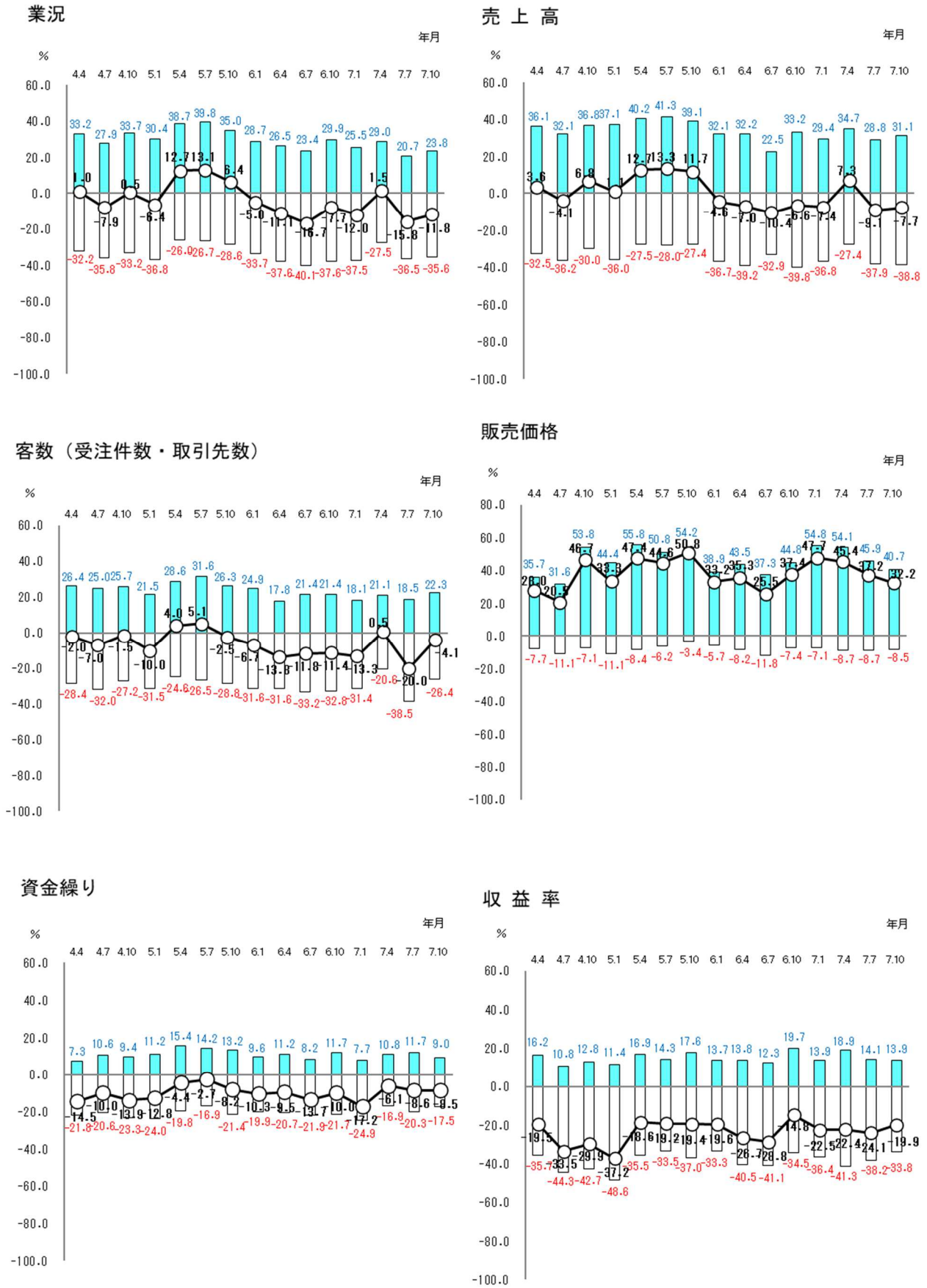
収益率



2 非製造業

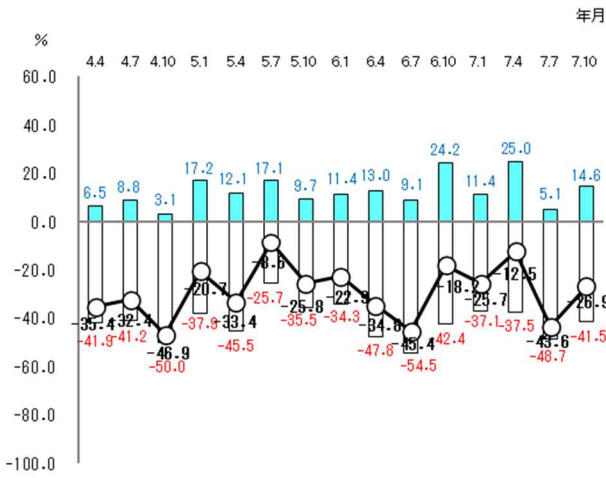
非製造業全体

(1) 前年同期に比べて

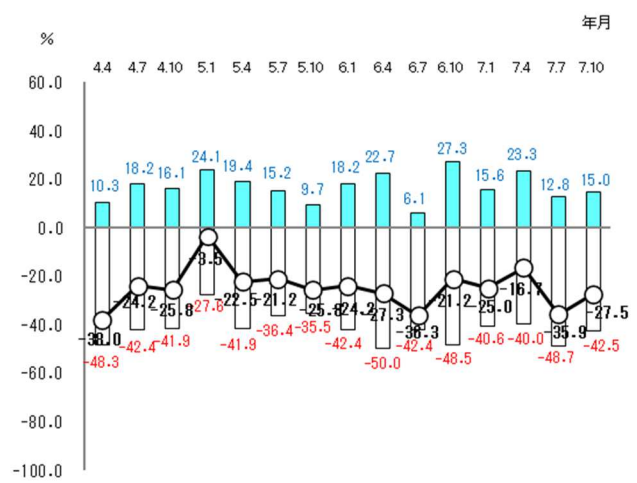


ア 建設業

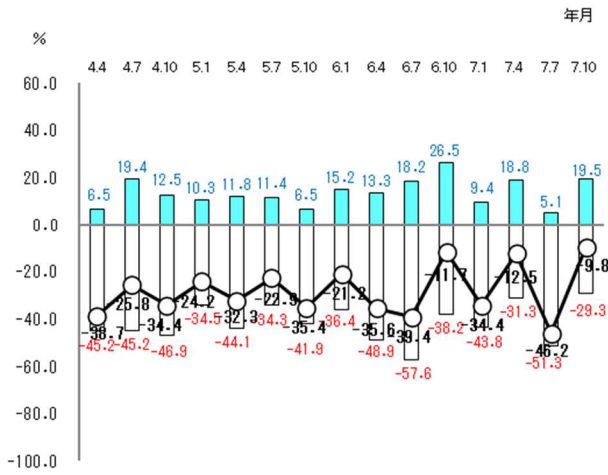
業況



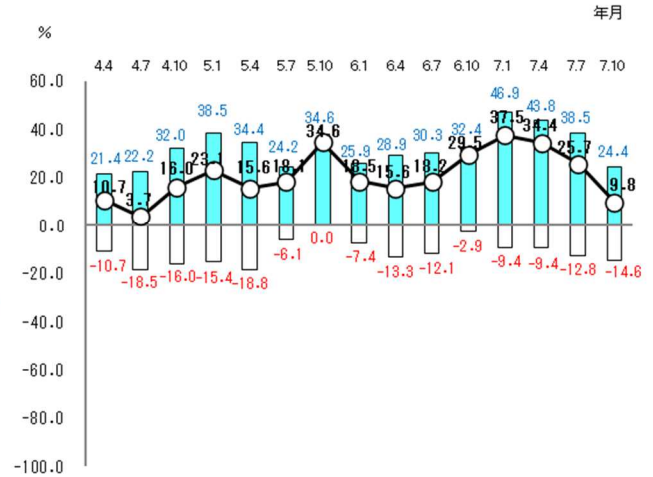
売上高



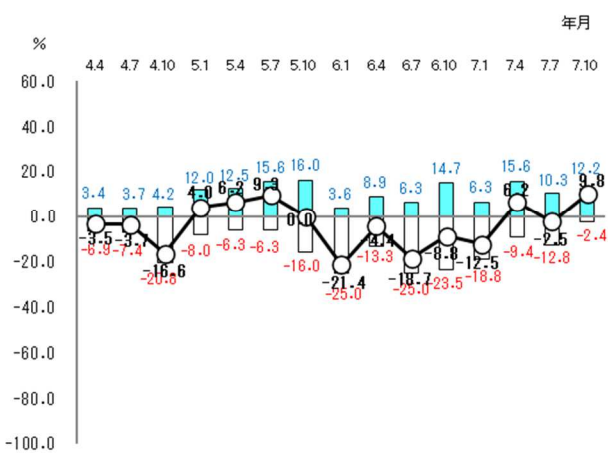
客数 (受注件数)



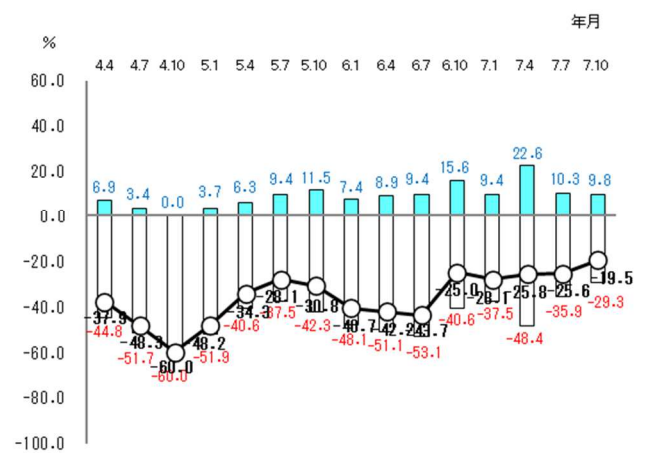
販売価格



資金繰り

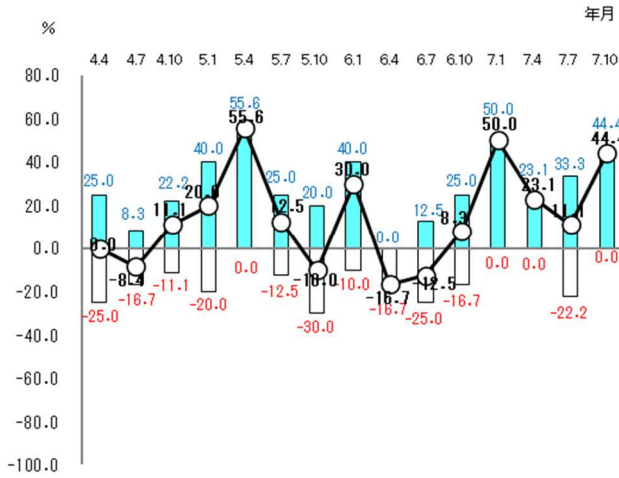


収益率

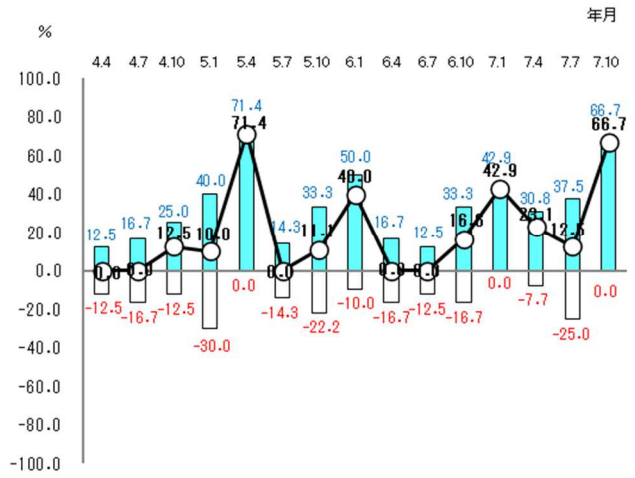


イ 情報サービス業

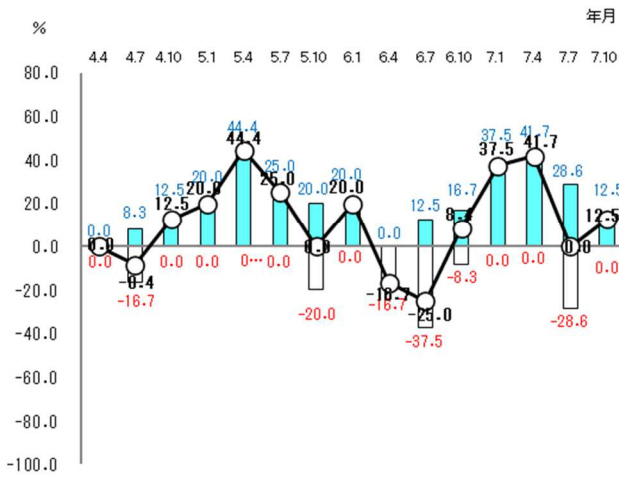
業況



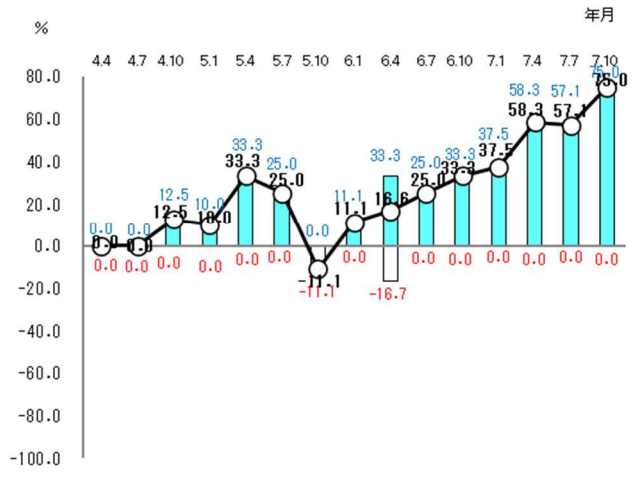
売上高



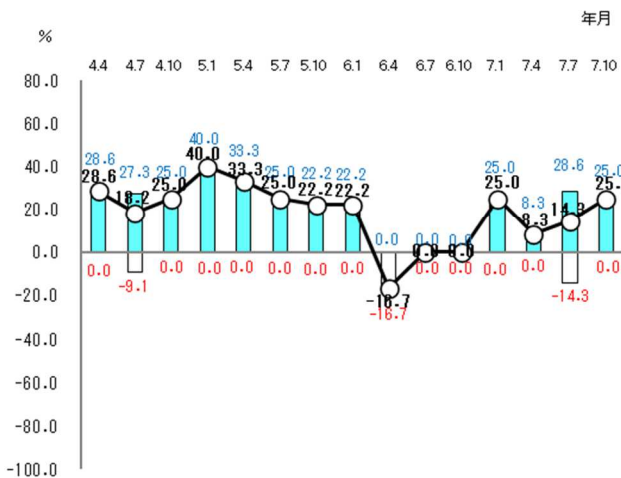
客数 (受注件数)



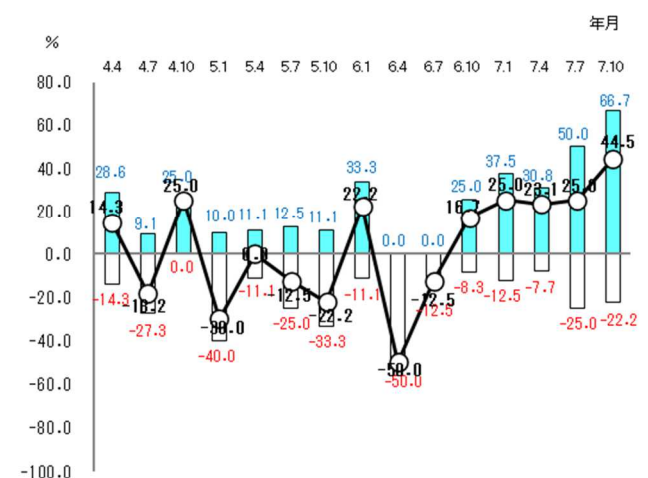
販売価格



資金繰り

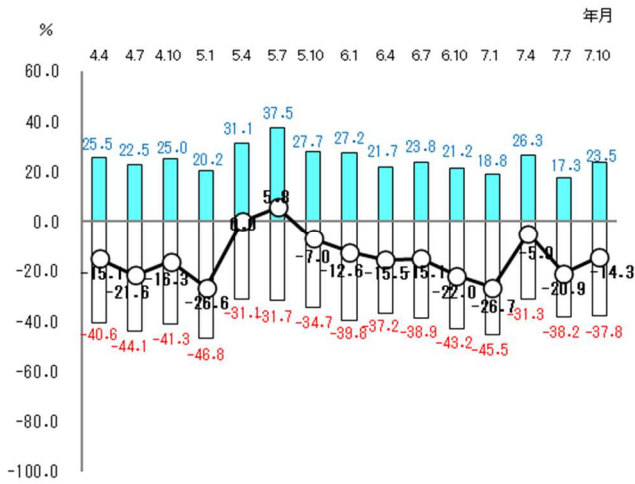


収益率

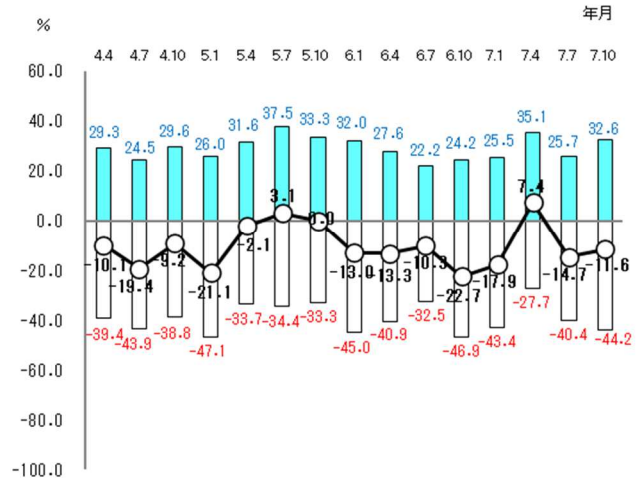


ウ 小売業

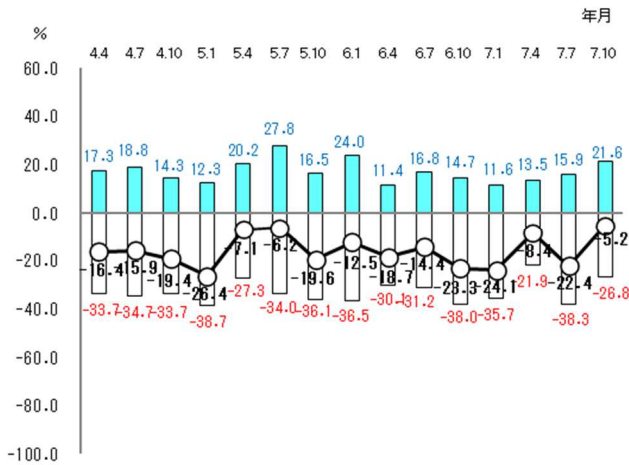
業況



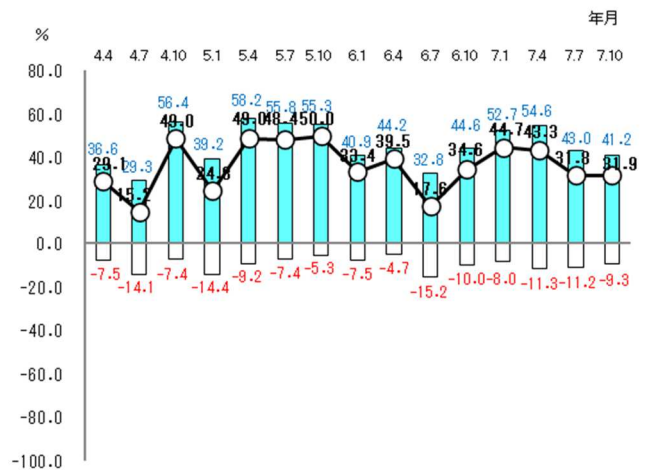
売上高



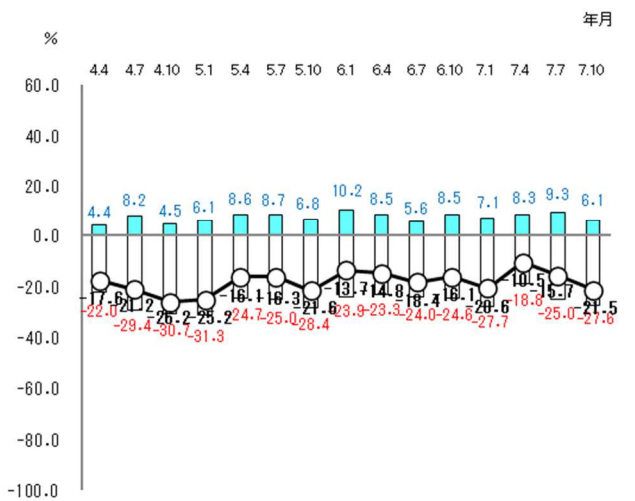
客数



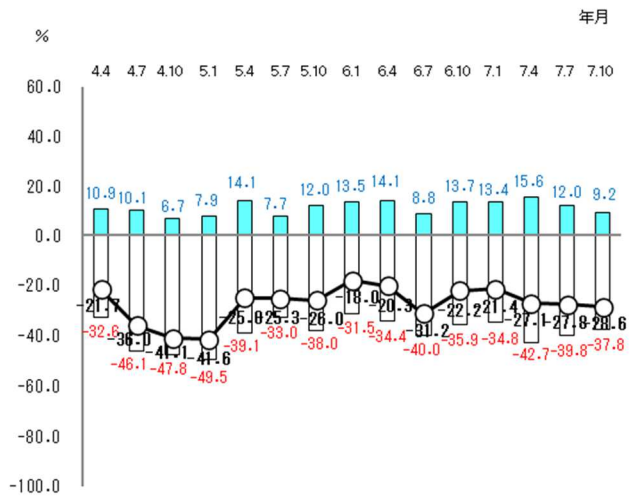
販売価格



資金繰り

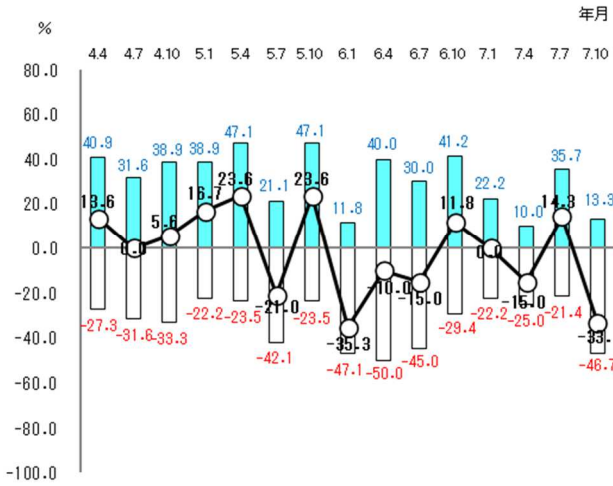


収益率

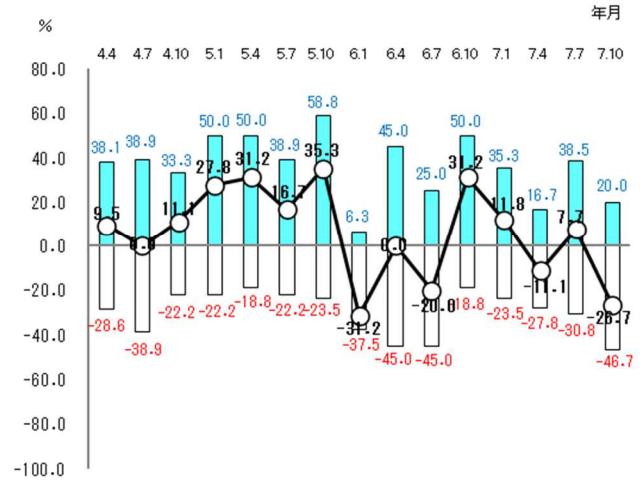


工 卸売業

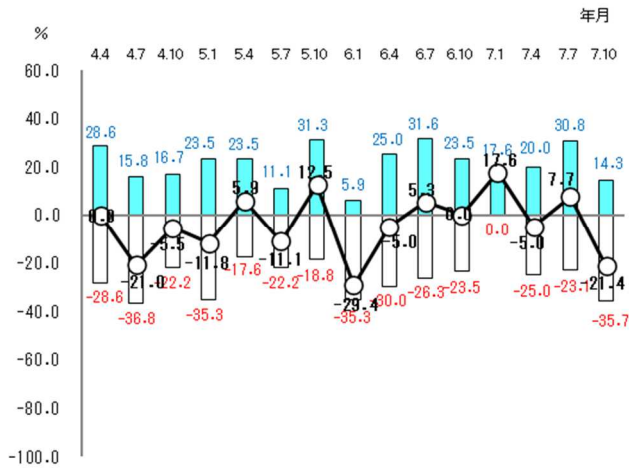
業況



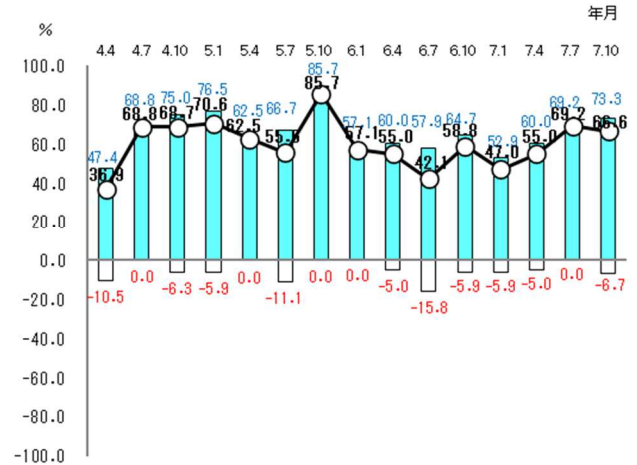
売上高



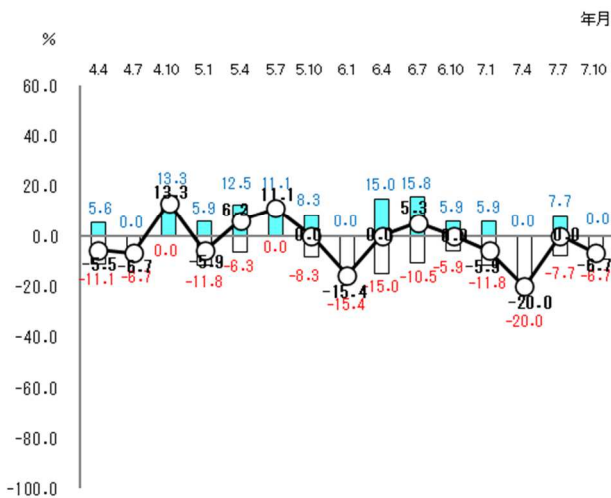
客数 (取引先数)



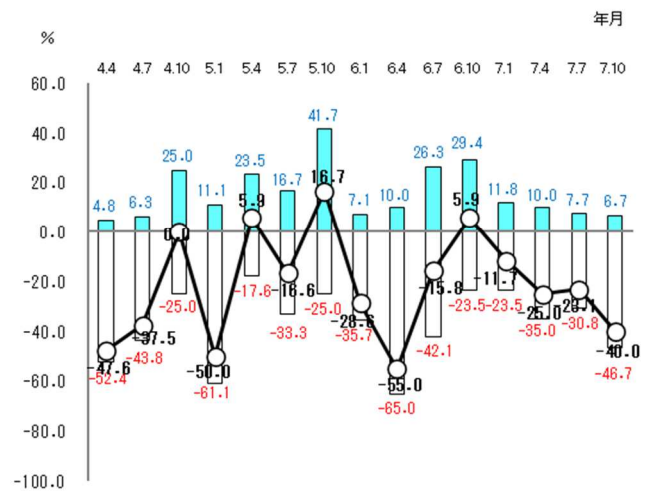
販売価格



資金繰り

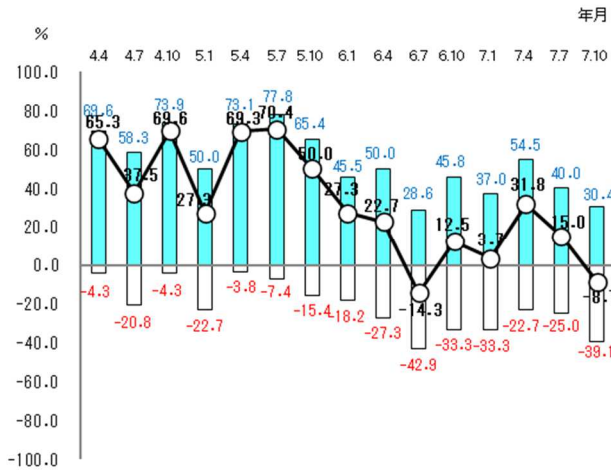


収益率

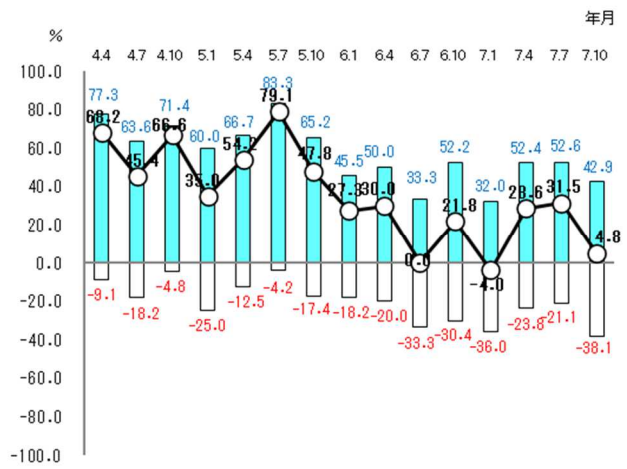


才 飲食業

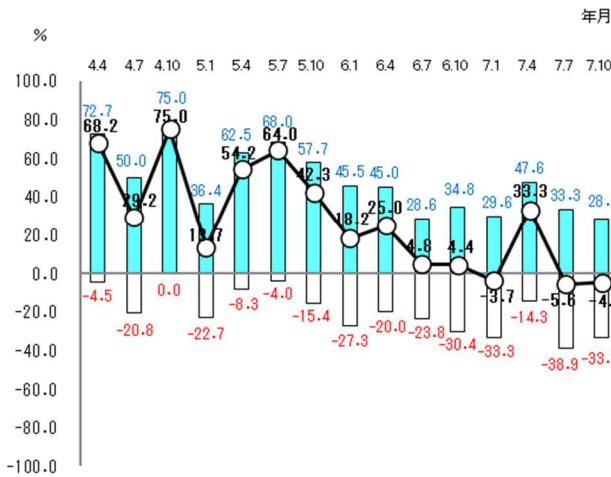
業況



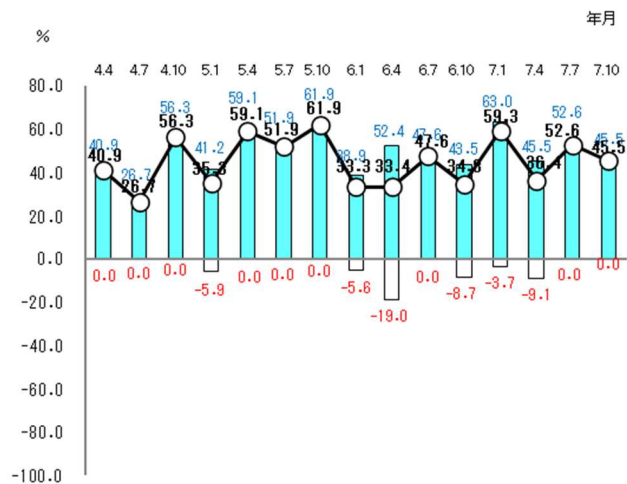
売上高



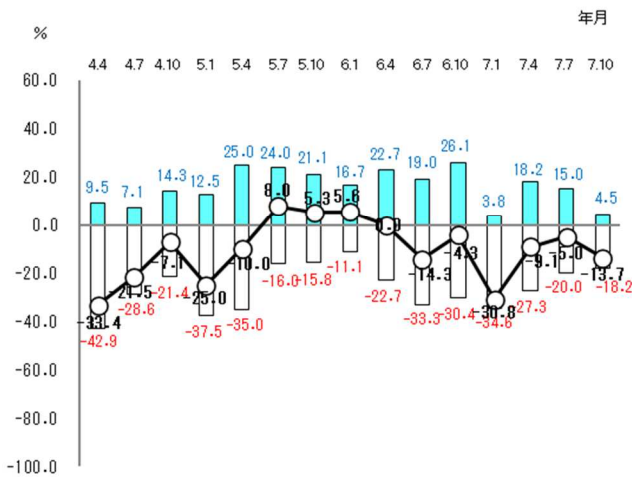
客数



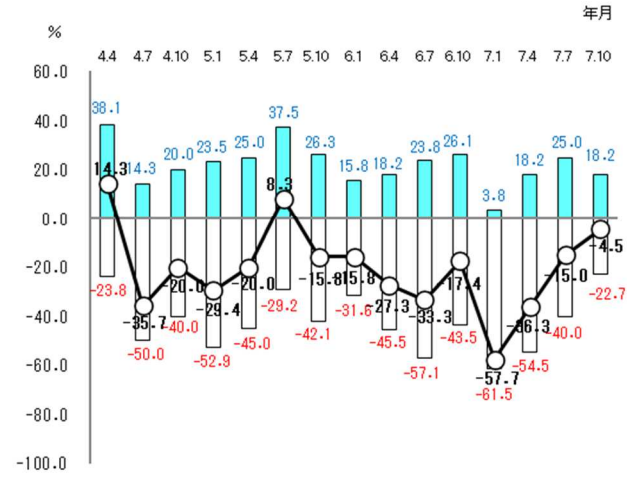
販売価格



資金繰り

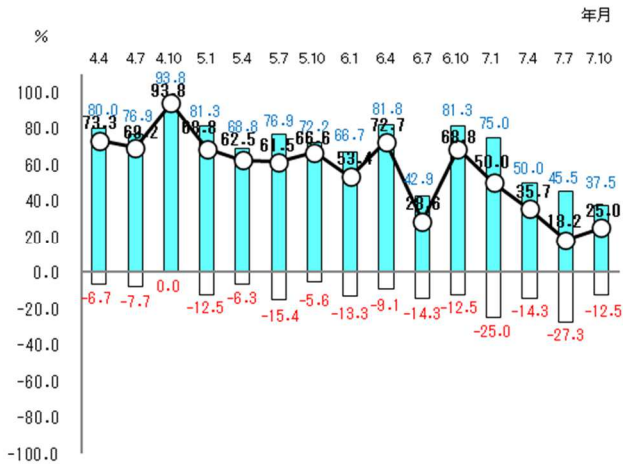


収益率

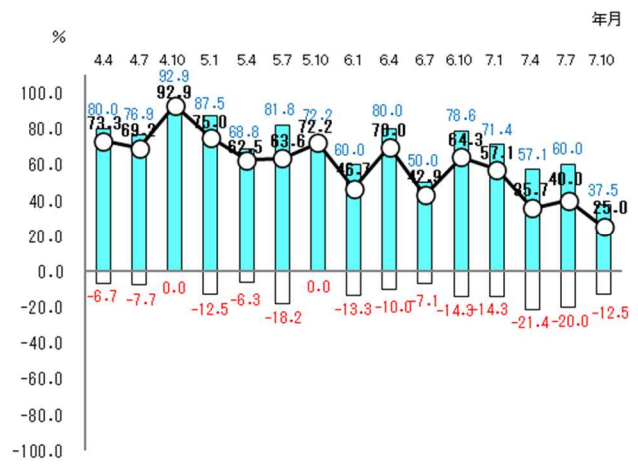


力 宿泊業

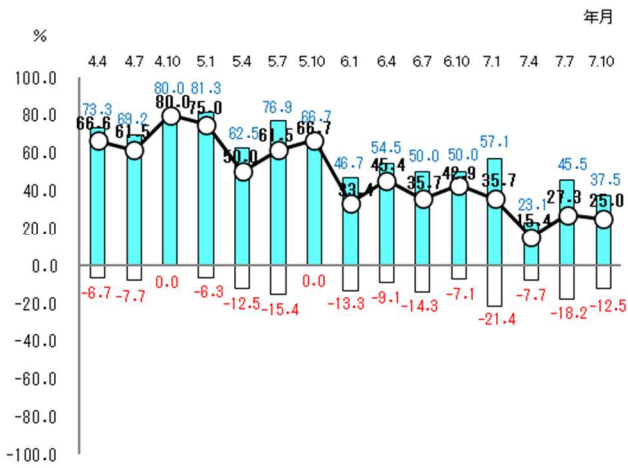
業況



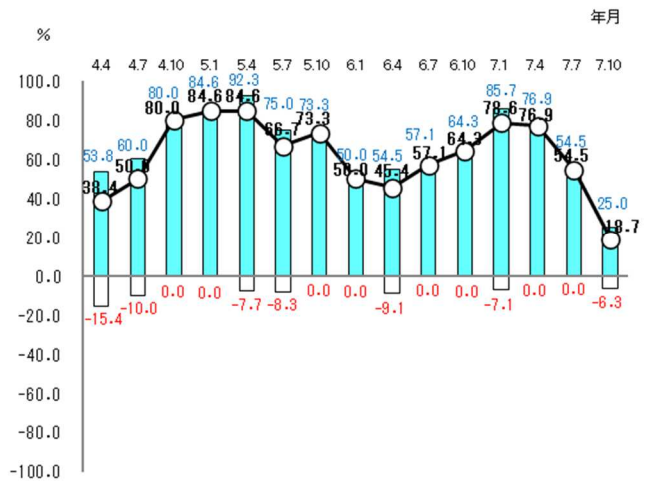
売上高



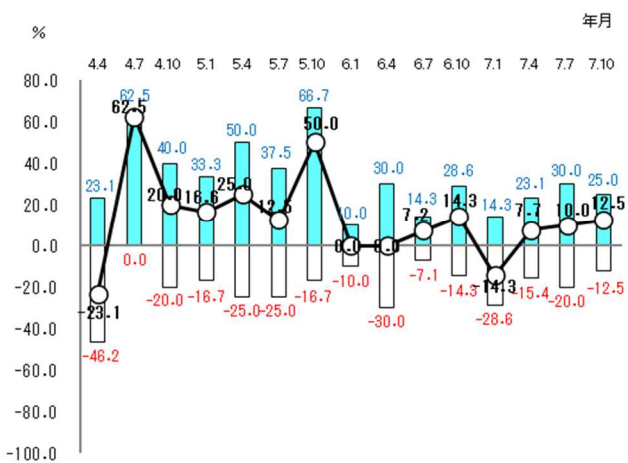
客数



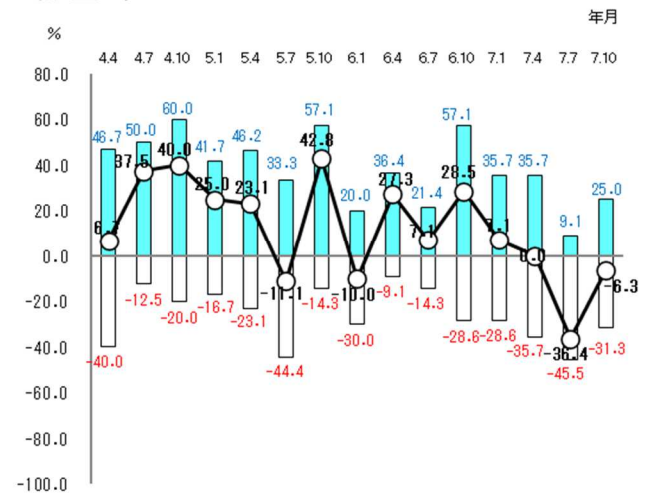
販売価格



資金繰り

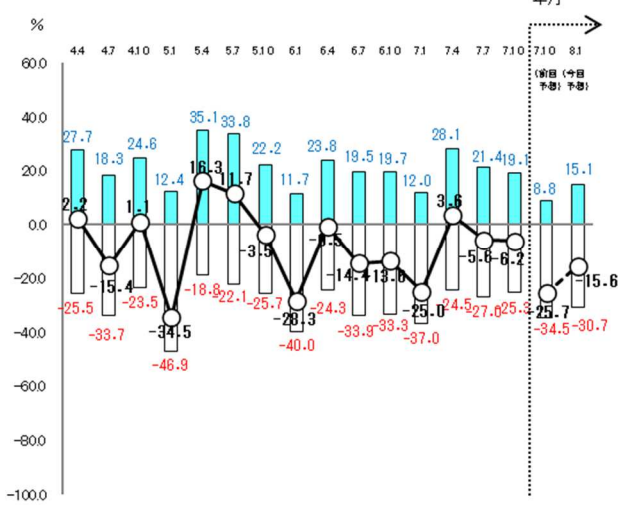


収益率

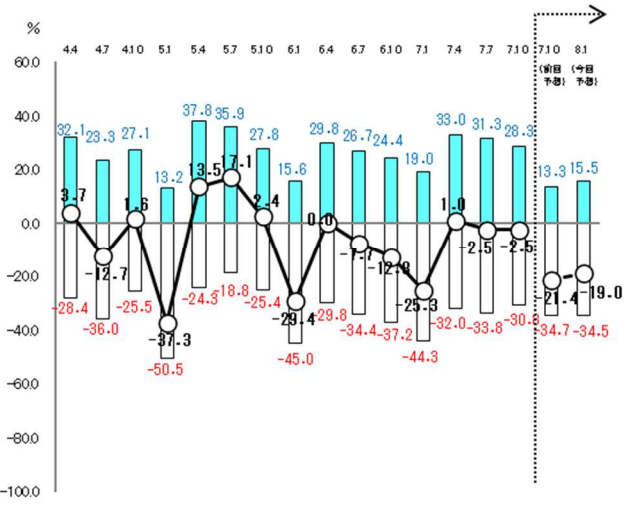


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想
非製造業全体

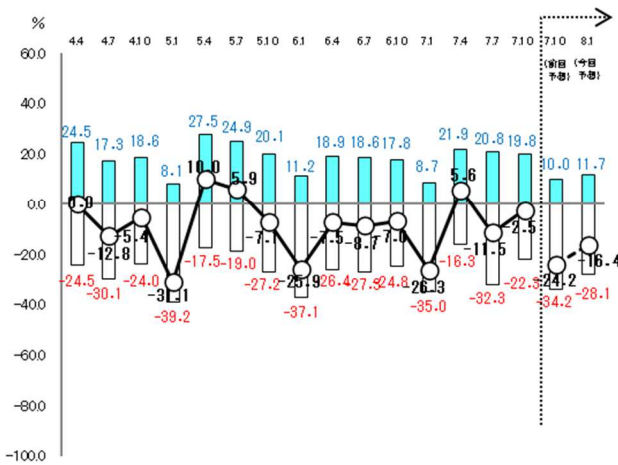
業況



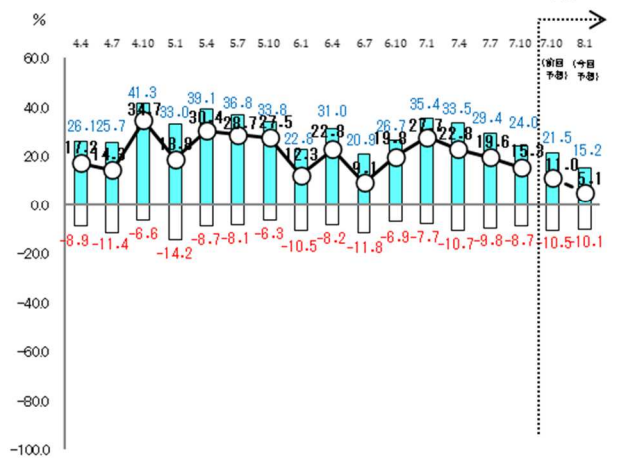
売上高



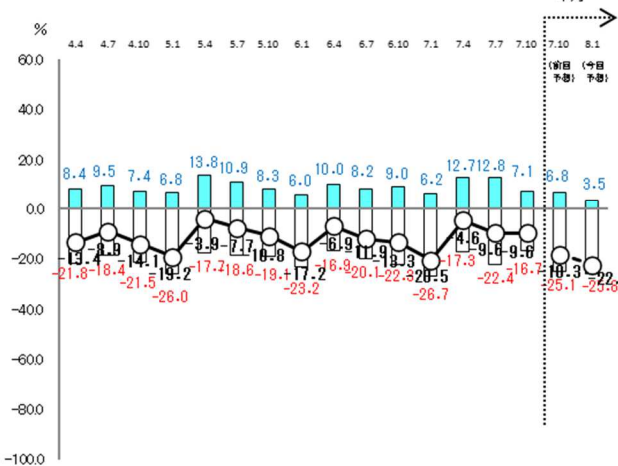
客数 (受注件数・取引先数)



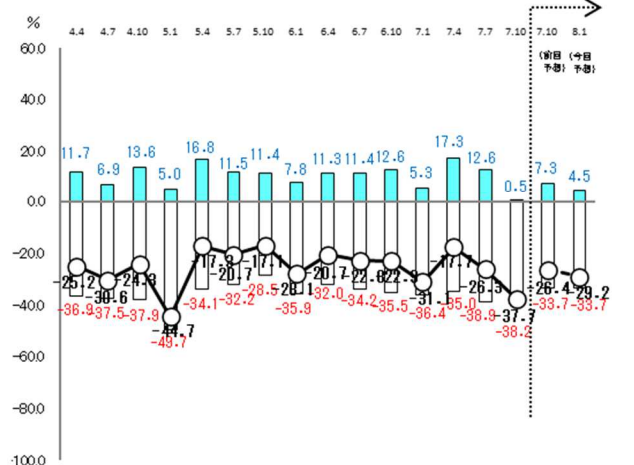
販売価格



資金繰り

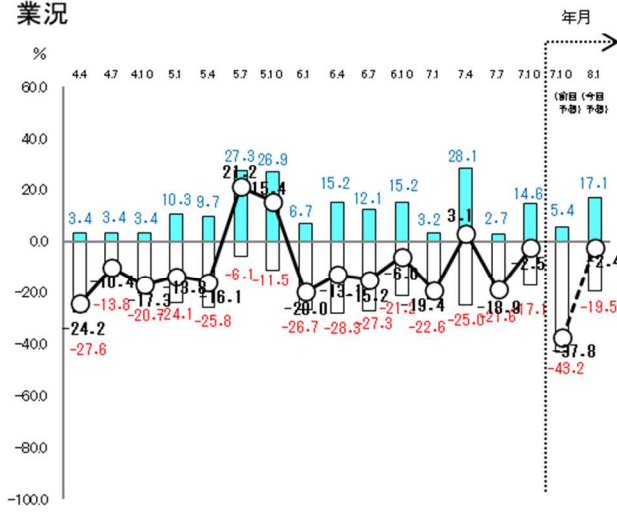


収益率

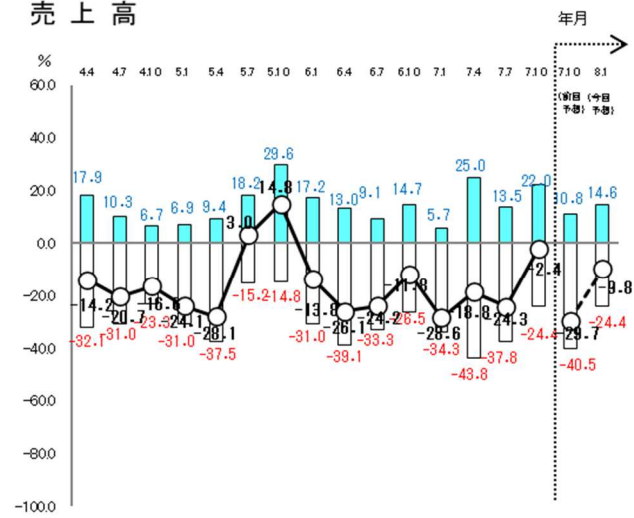


ア 建設業

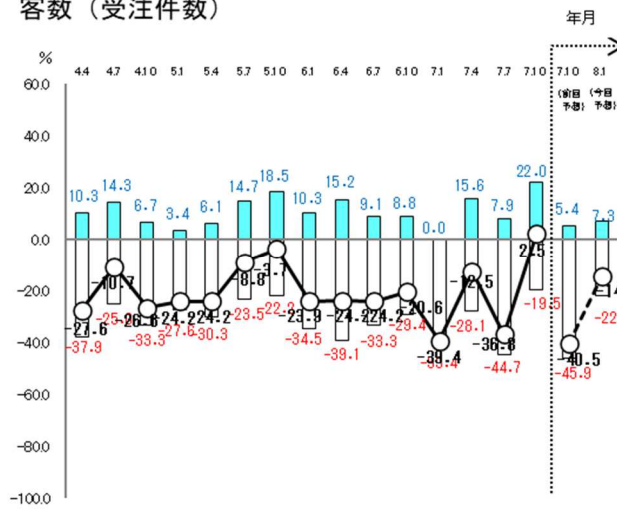
業況



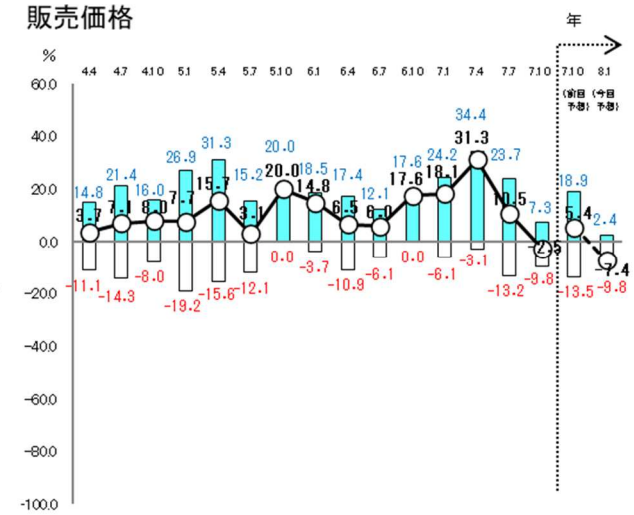
売上高



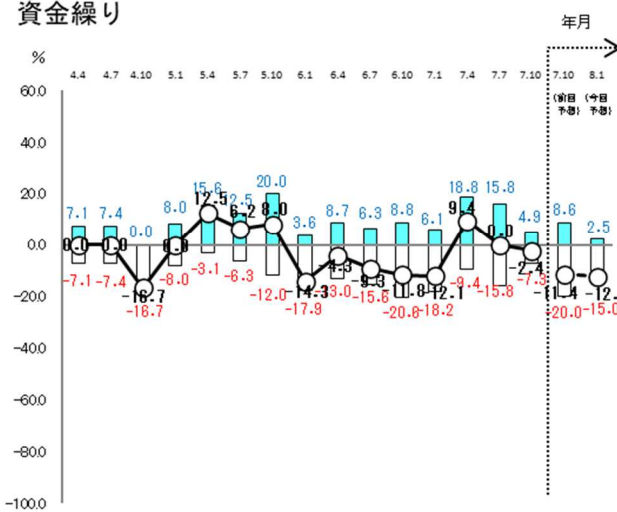
客数 (受注件数)



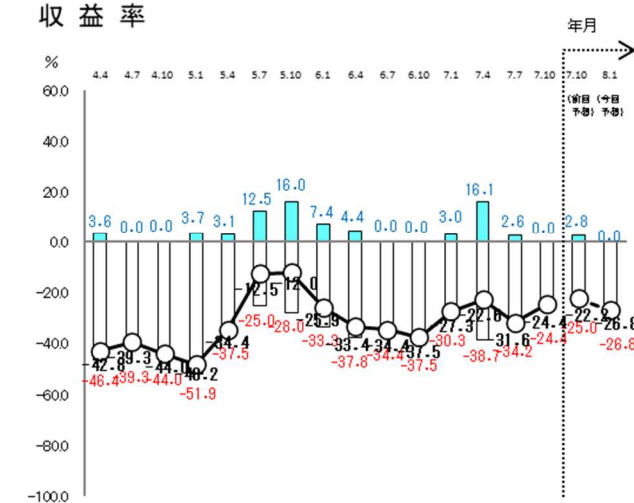
販売価格



資金繰り

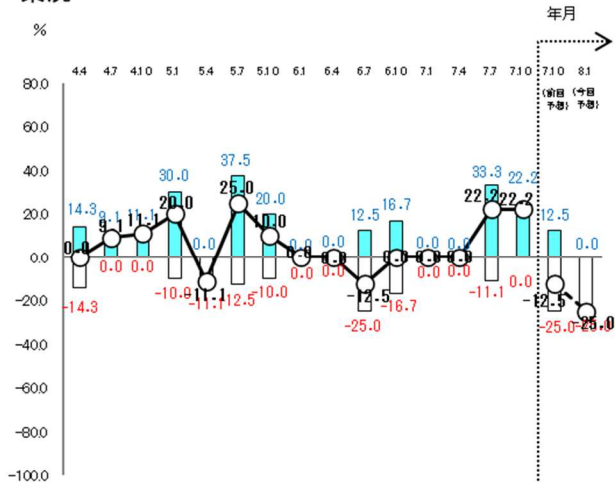


収益率

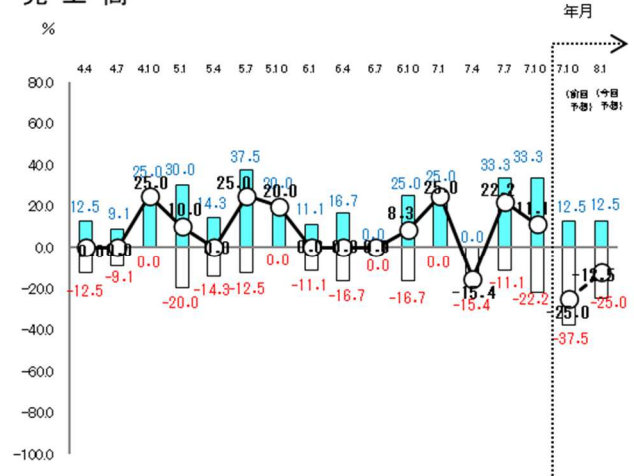


イ 情報サービス業

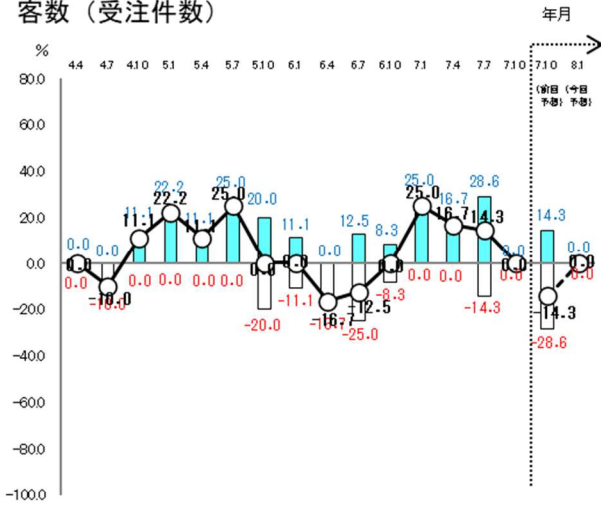
業況



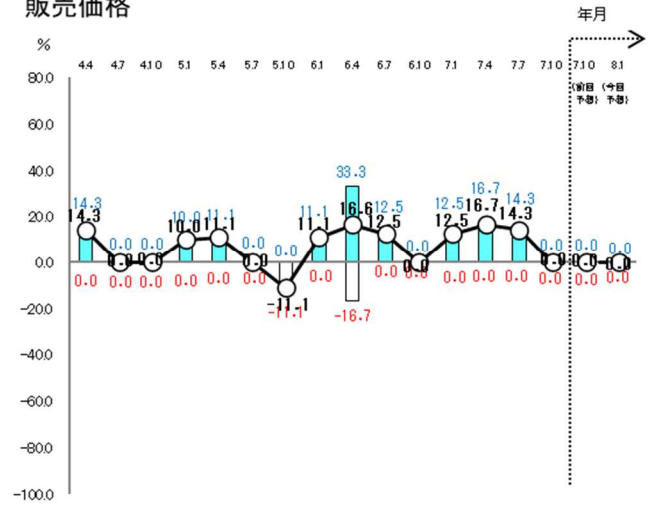
売上高



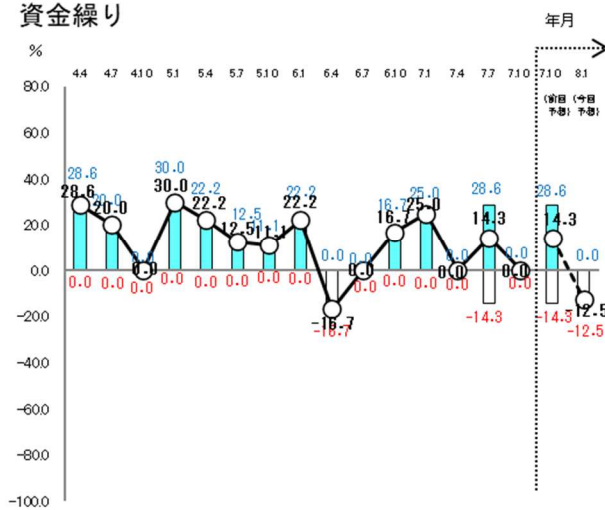
客数 (受注件数)



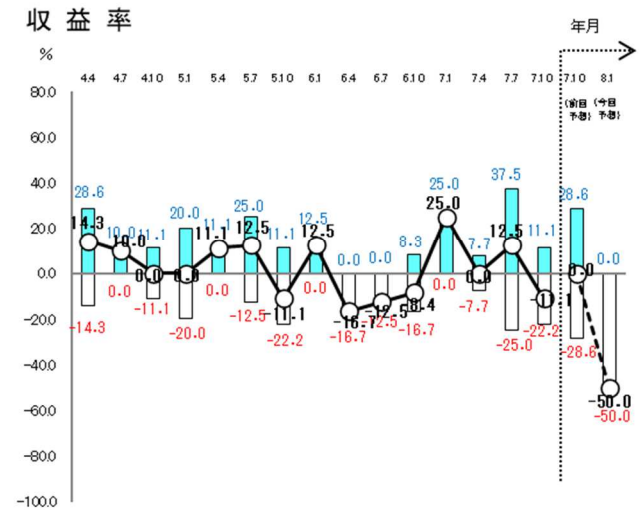
販売価格



資金繰り

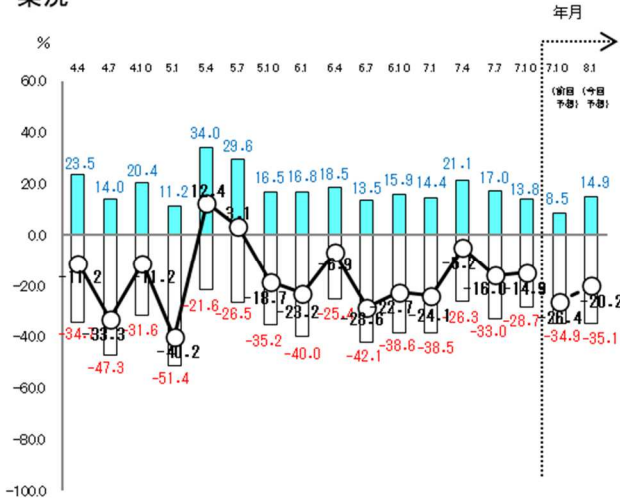


収益率

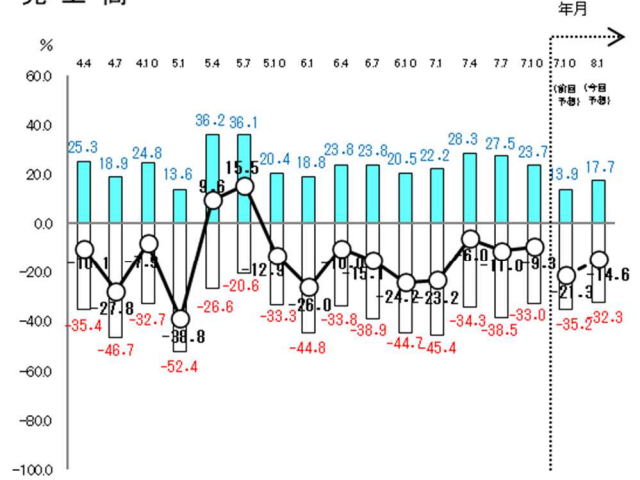


ウ 小売業

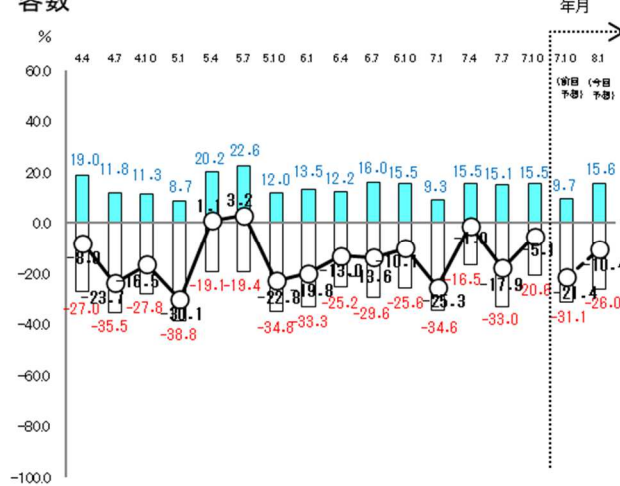
業況



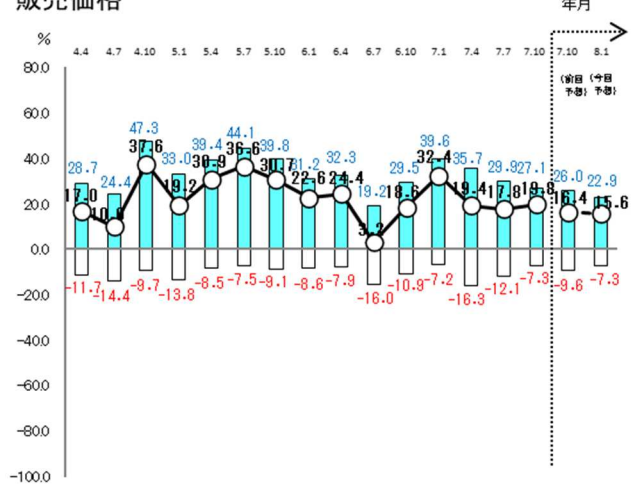
売上高



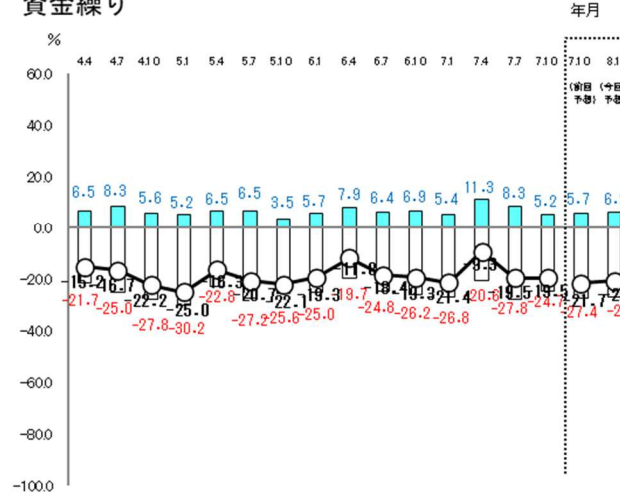
客数



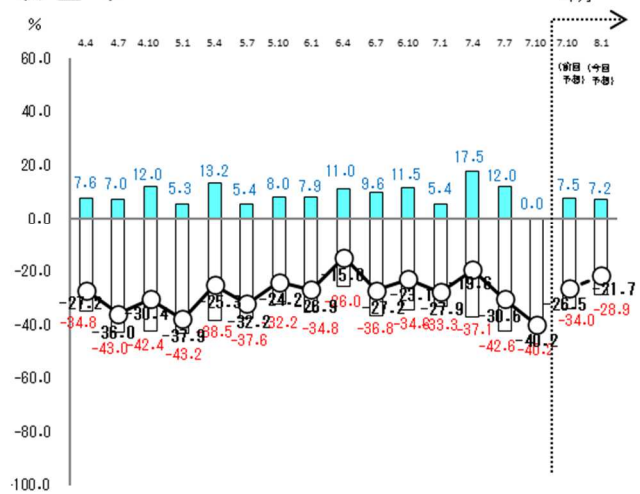
販売価格



資金繰り

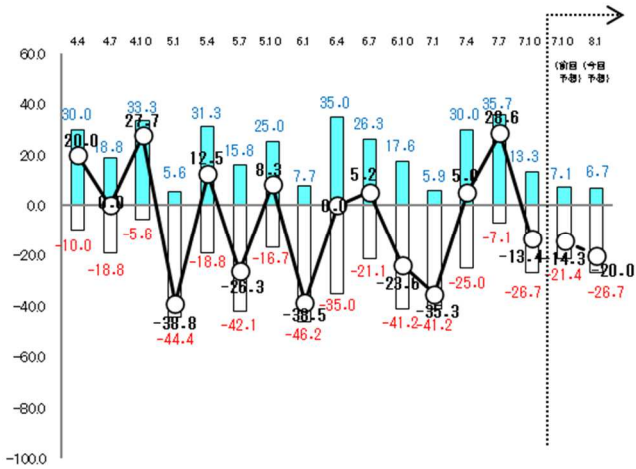


収益率

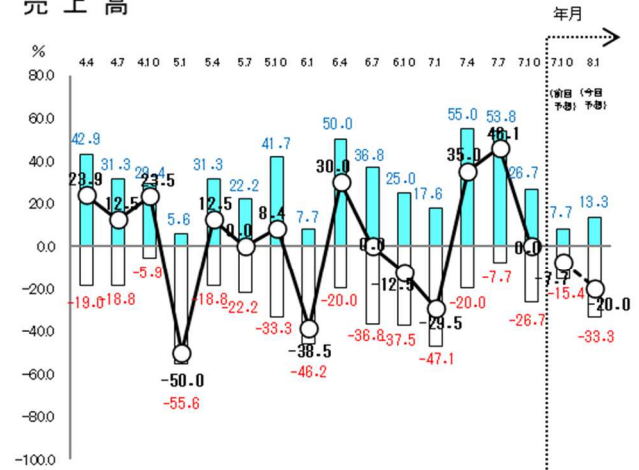


工 卸売業

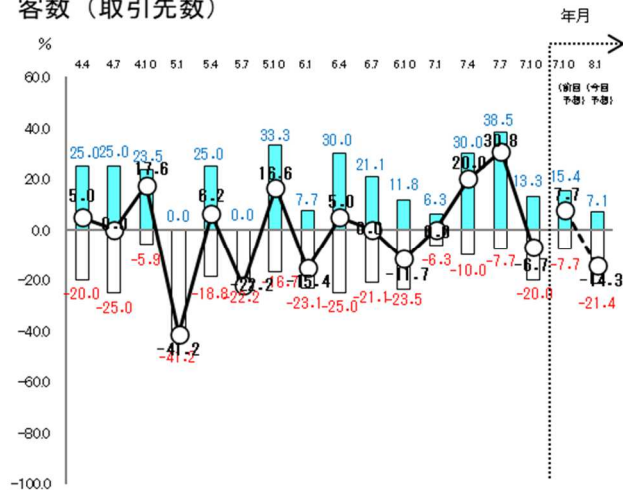
業況



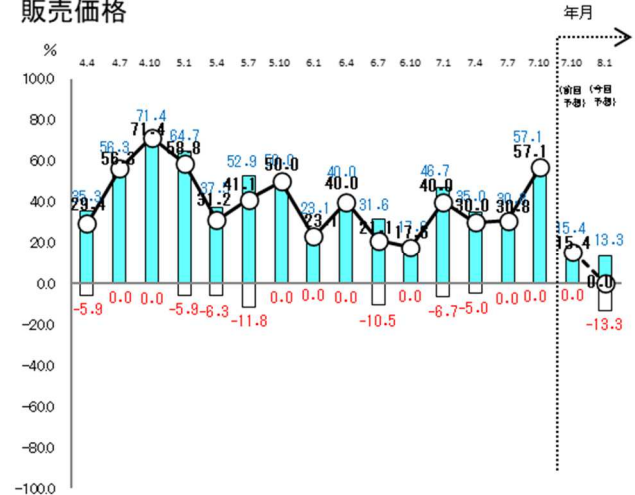
売上高



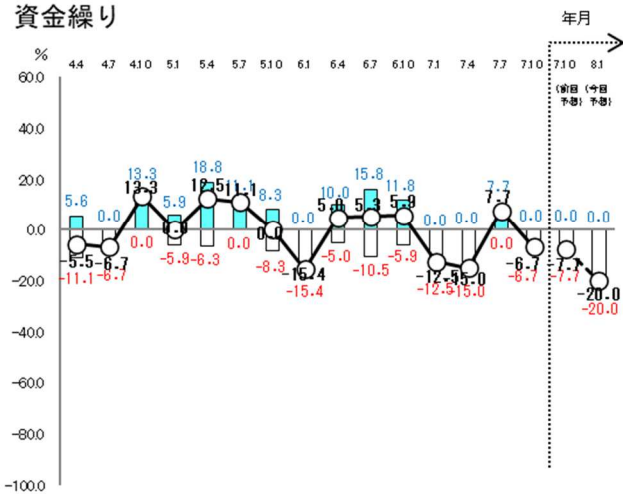
客数 (取引先数)



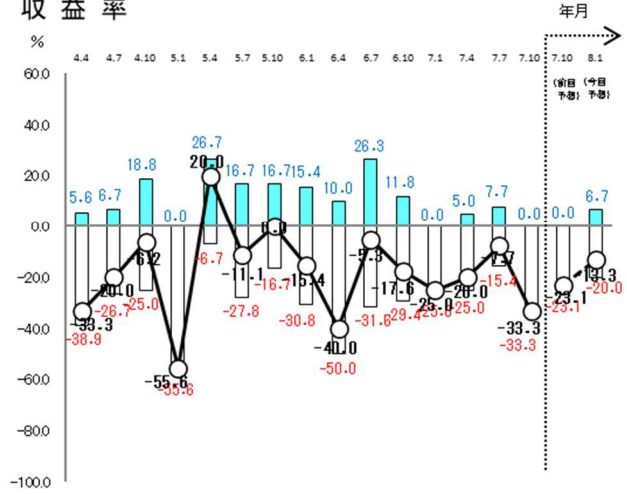
販売価格



資金繰り

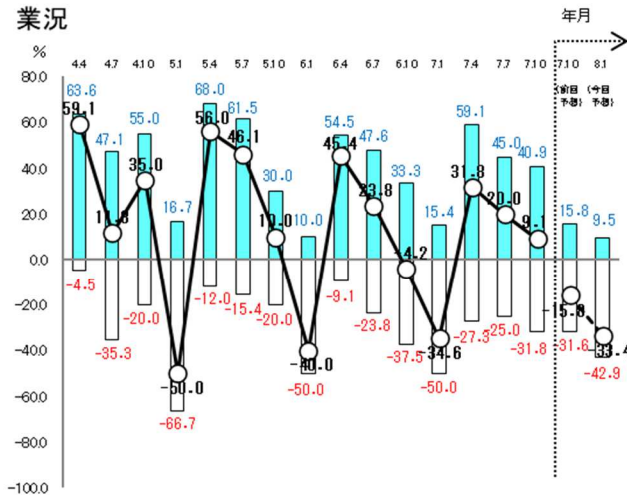


収益率

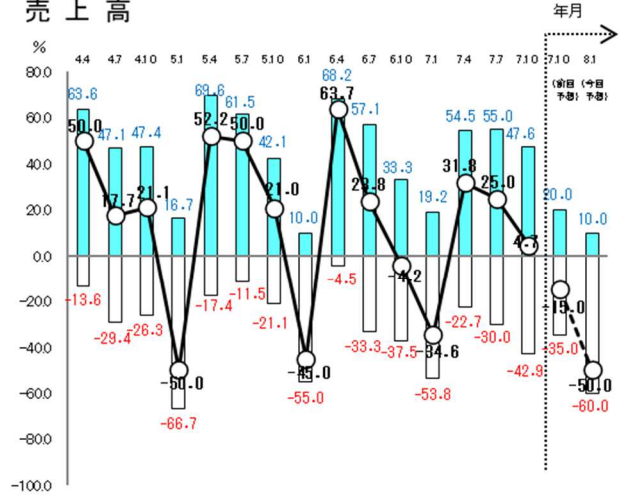


才 飲食業

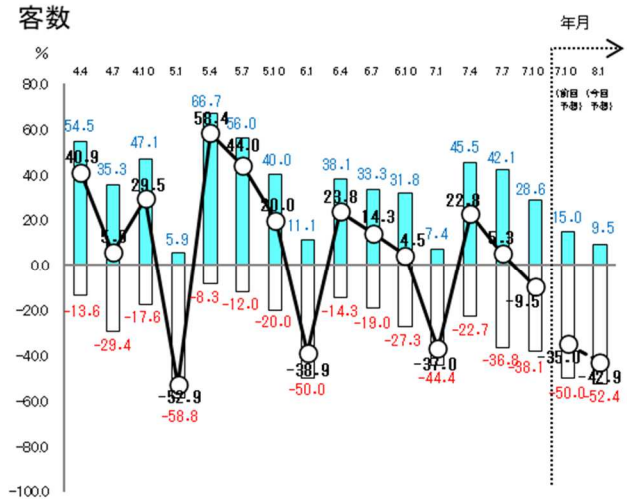
業況



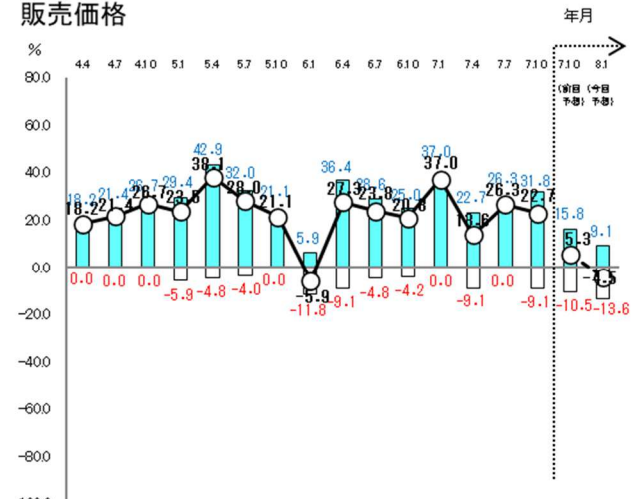
売上高



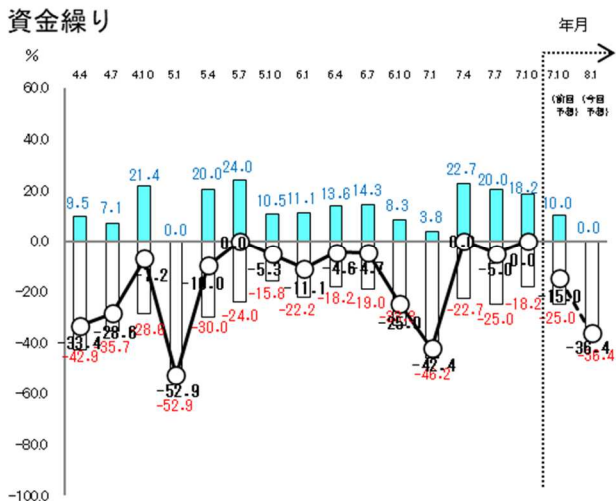
客数



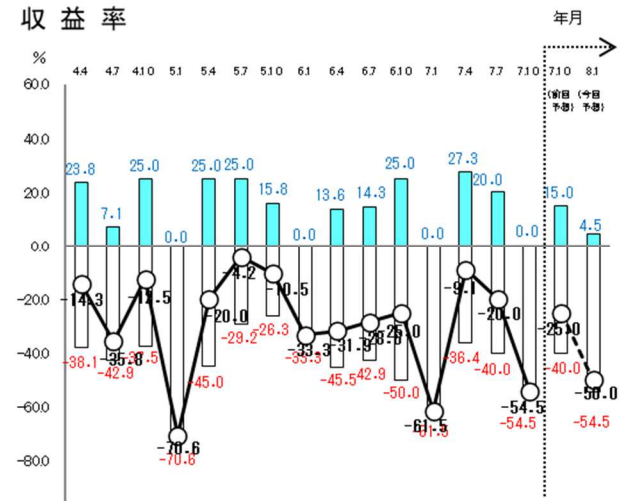
販売価格



資金繰り

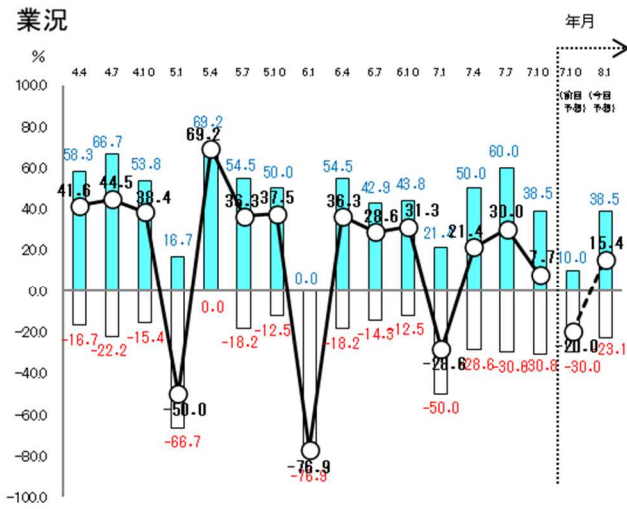


収益率

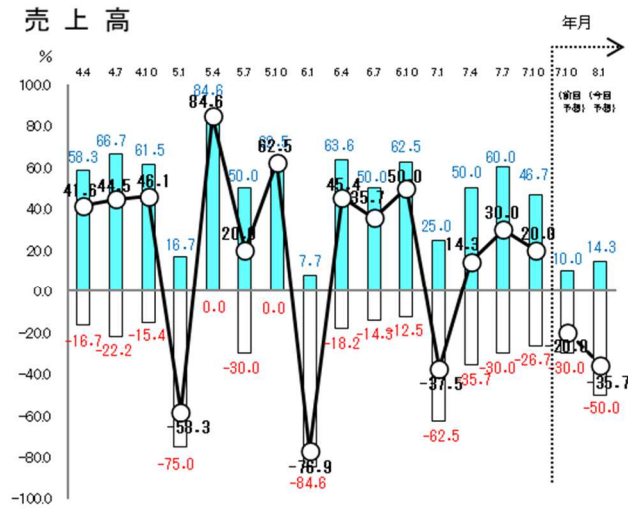


力 宿泊業

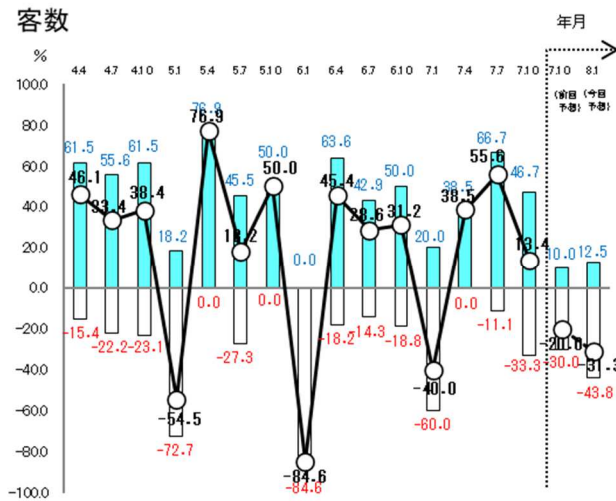
業況



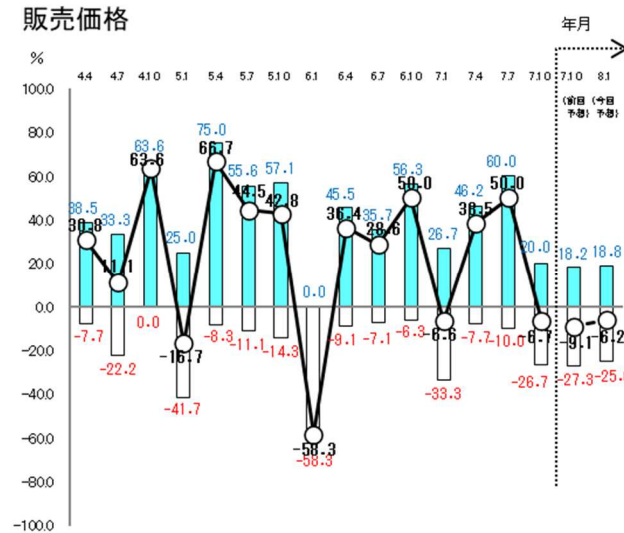
売上高



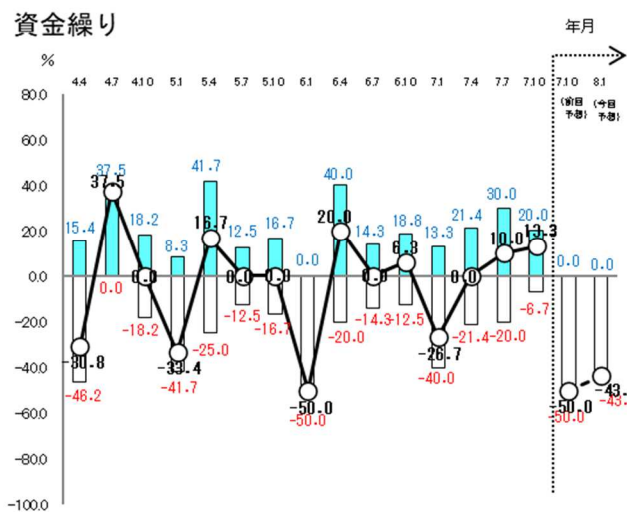
客数



販売価格



資金繰り



収益率

